

窓辺の伊予柑

高木瞳

どうどうと曇りが埋め尽くす中に伊予柑
くるっと人の顔が映っておどろく

私になる前の人、誰か

立ち止まっては鼓動を挟る

あたたかくて耳たぶが痺れて恐ろしくなった

透明が次から次へと通りすぎていく

石よりふてぶてしく光る伊予柑

空までチリっとたじろぐから

か弱く泳がせてやる

遠くまで騒がせてやる

私は何でも知っている

目一杯走り去るまで縮こまる伊予柑

ポツと灯って脚をぶら下げる伊予柑

息を潜めながら目を閉じる伊予柑

それでもなお、私にこびりつきはしない

二回振り返ったあの伊予柑